

Vent

音楽教育 ヴァン

vol. 55

巻頭インタビュー

二ノ宮知子 おもしろそう、を起点に

レポート

「請戸の田植踊」から学ぶ地域の民俗芸能

特集

新しい『中学生の音楽』『中学生の器楽』のご紹介

[中学校用教科書 内容解説資料]

特別インタビュー

上白石萌音 中学時代のかげがえのない合唱の時間

参考楽譜

器楽合奏『ボレロ』(作曲:ラヴェル 編曲:佐井孝彰)

KYO-GEI



「実践」を「生きた言葉」で伝える

2003年の創刊以来貫かれている『ヴァン』の基本コンセプトは、様々な情報や意見を共有できる「開かれた場」の創造と、音楽教育の「実践」を「生きた言葉」で伝えることです。そのため、音楽教育以外の専門家たちから貴重な専門的知識や情報の提供をいただくことと、各地の音楽授業の実践を紹介しつつ、実践者との対話を通してその思いや意図を深掘りすることを柱に編集が続けられています。この3月、東京藝大での最終講義を行うにあたり、創刊号から最新号まで振り返ったところ、どれだけ多くのことを『ヴァン』より学んだかを再認識させられました。『ヴァン』の取材から始まったむつ市立二枚橋小学校とのかかわりは、最終講義においても中心的な話題となりました。「音楽教育の原点である「子ども(学習者)・音楽・授業・教師」のかかわりをしっかりと基盤に据えて、広くネットワークを構築しながら、「ともにつくる」楽しさを分かち合っていきたい」という「創刊にあたって」の言葉をこれからもずっと大切にしたいと思います。

佐野 靖(東京藝術大学副学長・教授[音楽教育])

Contents

- 3 | 巻頭インタビュー
二ノ宮知子(漫画家)
- 8 | 授業者に訊く
今井由喜(渋谷区立渋谷本町学園中学校 教諭)
- 13 | レポート
「請戸の田植踊」から学ぶ地域の民俗芸能
- 18 | 特集
新しい『中学生の音楽』『中学生の器楽』のご紹介
[中学校用教科書 内容解説資料]
- 28 | 特別インタビュー
上白石萌音(俳優・歌手)
- 30 | Kyogei Presents
音楽診断
[第20回]昭和のテレビドラマ・アニメを支えた作曲家たち編(監修・解説:泉 麻人)
- 32 | Information
- 34 | 参考楽譜
カトカートンと合奏してみよう
器楽合奏『ボレロ』(作曲:ラヴェル 編曲:佐井孝彰)
- 36 | 「カトカートン通信」のご案内
- 37 | 「応援 SONG コンテンツ」のご案内
- 38 | エッセイ
新・音から広がる世界 [第15回] 藤原道山

おもしろそう、 を起点に

連載から20年以上、愛され続けている大人気コミック『のだめカンタービレ』。人気の勢いは止まらず、ドラマ化、テレビアニメ化、実写映画化に続き、昨年はミュージカル化もされ話題になりました。その作者である漫画家の二ノ宮知子先生が、作品にまつわるエピソードや、漫画を描くうえで大切にされていること、ご自身についてなどさまざまに語ってくださいました。同作品のドラマ・映画制作に携わられたピアニストの河野紘子さんとの対談の様子をお届けします。

漫画家

二ノ宮知子

聞き手

河野紘子

Tomoko
Ninomiya



©二ノ宮知子／講談社



● 二ノ宮知子 (にのみや・ともこ)

2004年、『のだめカンタービレ』で第28回講談社漫画賞少女部門を受賞。同作はテレビドラマ・アニメ・映画化され、国民的人気を博している。現在は「Kiss」（講談社）にて『七つ屋志のぶの宝石匣』を連載中。他の代表作として『GREEN』『トレンドの女王ミホ』などがある。

きっかけは一枚の写真から

河野：『のだめカンタービレ』は音楽大学を舞台にした学園コメディで、プロの音楽家たちからも大絶賛されています。クラシック音楽や音大生のことを描こうと思われたのは何かきっかけがあったのですか？

二ノ宮：ちょっとおもしろいと思う子に出会ったのが始まりですね。当時、自分のホームページに掲示板を作って、気軽にファンのかたたちと交流していたのですが、その中の一人に「のだめ」という名前の音大生の女の子がいたんです。彼女は私の『平成よっぱらい研究所』という漫画のファンだったらしく、音楽とは関係なく私の掲示板にやって来ていました。

河野：主人公のモデルとなった、リアルのだめちゃんとは掲示板でお知り合いになったんですね。

二ノ宮：そうなんです。その掲示板に集まるファン同士でも交流があったようで、あるとき、のだめのアパートに遊びに行ったら部屋がすごく汚かったっていう報告の写真が送られてきたんですよ。グランドピアノの下にゴミがたまっていたり、一升瓶が転がっていたり……。それを見て、音大生に抱いていたイメージが台無しになって（笑）。

河野：そうですね（笑）。

二ノ宮：音大生と聞くと、いいところのお嬢さんをイメージしがちじゃないですか。そのイメージと写真に広がる光景と

いろいろ描いて、
どうせならクラシックを
やり尽くそうと思って――。

のギャップがすごくおかしくて、漫画に描いたらおもしろくなるんじゃないかなと思ったんです。

河野：イメージを覆す衝撃のお写真が制作のきっかけになったのですね。『のだめカンタービレ』のキャラクターってみんなすごく個性的でおもしろい子たち、でも音大生に似そうな子たちばかりなんです。リアルのだめちゃんとの出会いからどのように発想を広げていかれたのでしょうか？

二ノ宮：描くことに決めてからリアルのだめが通う音大に取材に行かせてもらったんです。彼女の日常を見て回ったり、彼女の友達ともお話しさせてもらったりする中で、違う楽器を専攻している学生とも交流があって仲良くなるとか、大学のさまざまな様子を知っていきました。はじめはピアノだけのお話にしようと思っていましたが、いろいろなキャラクターがいたほうがおもしろいかもしれない、

じゃあ指揮者を描けばオーケストラも描けるし、と取材を通して範囲を広げていきました。描くことになってからチェロやヴァイオリンなどオーケストラの楽器を描くのがこんなに大変だったのかとけっこう後悔した部分も……（笑）。

空気を知る

河野：この作品を描くにあたって、大切にされたことはありますか？

二ノ宮：取材重視にしたことですね。私が勝手に妄想で描いたような音大生たちではなく、実際の音大生たちを見て、その雰囲気とか空気を感じながら描こうというのは心がけていました。あとは、ストーリー展開ですね。クラシック音楽を題材にした漫画といえば、どちらかというと主人公の悲劇と音楽を結びつけるような物語が多いように思います。私はそういうのが苦手なのもあって、お笑いや楽しい要素を加えつつ、取材で会った音大生たちのイメージを大事にしながらできるだけ「普通の子」を描くようにしていました。キャラクターに共感してもらえたのなら、それはやっぱり取材があったからだと思いますね。

河野：取材中に気を付けていることはありますか？

二ノ宮：取材してその業界の人に会うことで、空気感や、その人たちが嫌だと思っていることや伝えたいと思っている

こと、もっと世間に知ってほしいと思っていることは何なのかをくみ取っていくことですね。その人たちが描かれて嫌なことは描かないとか、そういうことは気を付けています。

河野：そういった空気感はお話しされているときに分かるのでしょうか？

二ノ宮：そうですね。例えば、たくさん話すうちに、その業界にもさまざまな種類があって、いろんな人がいるのに、ある一方だけのイメージで世間に伝えられてしまうのがすごく悔しいといったことを教えてくれる場合もあります。そういうことが聞けたら気を付けようと思うし、もっとこういうことを知ってほしいという要望があったら、なるべく描くようにしています。

河野：綿密な取材が読者をよりひきつけるのですね。『のだめカンタービレ』では、音楽に本気で向き合うことの楽しさと難しさ、それに対する葛藤が演奏家目線で描かれていて、二ノ宮先生は音楽を本気でされていたことがあるのではと思うくらいに私もシンパシーを感じて読みましたが、心情のような部分も取材からくみ取っていたのでしょうか？

二ノ宮：取材だけでは分からないことに関しては、たぶん漫画家も一緒だろうと置き換えながらやっていました。漫画家の世界にもアマチュアでやる人もいれば、趣味で楽しむために描く人もいます。何かを突き詰めてやるということは、さまざまな葛藤を乗り越えていくことだろうなと……。描いているときの孤独と、一生懸命一人で練習しているときの孤独も似ているのではないかな、と想像して描いていました。

河野：漫画家も音楽家も本質的には同じなんですね。私も演奏の仕事をしていますが、いまだに本番前はやっぱりすごく怖くて不安で、そんなときにこの作品に出てくる言葉を思い出すと勇気づけられます。私は二ノ宮先生が選ぶ言葉にすごくひきつけられるのですが、それは先生ご自身の漫画家としての経験から紡がれる言葉だからなのですね。

テーマを基に構想する

河野：『のだめカンタービレ』では、キャラクターの設定もまた秀逸だと思いましたが、そのあたりは構想の段階からある程度、決められていましたか？

二ノ宮：そうですね、とりあえず3巻くらいまで考えて、そのあとは描いていく中で、「のだめ」や「千秋先輩」をこの先どういうふう成長させていこうとか、

2人の関係性をどうしたいかというのを改めていきました。どうやって海外に行かせることにしようかというあたりもいろいろ悩みましたが、ギャグとのちょうどいいバランスを探っていた感じです。

河野：そういったことを組み立てながら、取材からの要素も盛り込んで描いていくんですね。

二ノ宮：そうですね、あとはそのときの時事問題と絡めつつ、こんなキャラが今いたらおもしろそうだなと思いついたら、それに合ったテーマとその業界のホットなネタを組み合わせ、3つくらいテーマでまとめるようにしています。割と、作曲と一緒にかもしれないですね。

河野：本当にそうですね。音楽ではテーマの中に幾つかのモチーフがあり、それぞれが変化や対比を交えながら発展しているところと現れて、そんなふうに漫画も構成されているんですね。

二ノ宮：そう、ちゃんとうねりが出るようにうまく絡められたらなと、もう一回考えたり構成しなおしたり……。作曲はできないですけど似たような思考はしているかもしれないですね(笑)。

河野：それはすごく興味深いです。

漫画家も音楽家も本質的には同じなんです。私は二ノ宮先生が選ぶ言葉にすごくひきつけられるのですが、それは先生ご自身の漫画家としての経験から紡がれる言葉だからなのですね。



● 河野紘子(ここの・ひろこ)

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学を経て同大学研究科を修了。アンサンブルに定評があり、声楽・器楽奏者のリサイタルのパートナーとして、「東京・春・音楽祭」、水戸芸術館主催「池辺晋一郎の肖像」など数多くのコンサートに出演。ソプラノ歌手小林沙羅氏のアルバムなどCD録音も多数参加している。またドラマ・映画「のだめカンタービレ」の主人公の手・音の吹き替え、現場での指導を担当するなど多方面で活動中。



取材は2023年11月21日、
教育芸術社で行われた

クラシックをやり尽くしたい

河野：『のだめカンタービレ』ではたくさんのクラシック作品が使われますが、どの曲もシーンにぴったり合っていて、しかも楽曲の解説や背景も含めて描かれているものもありますよね。選曲などはどのようにされていましたか？

二ノ宮：リアルを追求したくて、途中からですが、作曲家の先生に音楽監修をお願いし、音大生が実際に課題として取り組む曲や、コンクールで使っている曲などを挙げてもらっていました。例えばコンサートの場面だったら、その場面用のプログラム全体を組んでもらったり、物語の展開に合わせて、ちょっとしっとりした曲とか元気いい曲とかテーマごとに依頼したり、けっこう細かく発注しました。選曲する中では、現代曲も出してほしいとか先生からの要望もありましたね。

河野：その作曲家の先生が幾つか挙げられた曲を聴いて、決めていったのでしょうか？

二ノ宮：そうですね、こちらから候補を出すこともあります。先生が気に入らないって理由で選んだ曲に「こんなのっ」と言われてしまうときもありました。気に入らない理由を尋ねたら、「え、なんかオシャレじゃないし……」と。それに対して私も引かずに、「いや、オシャレですよこれ！」「僕はそう思わない！」なんてやりとりも交わしながら……（笑）。そういう先生の趣味を伺いながら選んでいくのも楽しかったですね。

河野：誰もが耳にしたことのある超有名曲だけではなく、少しマニアックなおもしろい曲も登場するのは、そういうことだったんですね。

二ノ宮：クラシック音楽といっても、古典や現代などいろん

な時代やジャンルがあって、それから西洋だけでなく日本人の作曲家もいて、そういうのもいろいろ描いて、どうせならクラシックをやり尽くそうと思って選曲しました。

河野：ストラヴィンスキーの《ペトルーシュカからの3楽章》が『きょうの料理』（NHK）のテーマ曲（富田勲 作曲）になっちゃうというのは、どなたのアイディアだったんですか？

二ノ宮：あれは私の思い付きです。《ペトルーシュカからの3楽章》を聴いたときに、のだめがちょっとトチるシーンを描きたくなったんです。どう描くか考えながら聴いていたら、ふと、『きょうの料理』に似ているとひらめいて、どうにか事故で置き換わらないかなと（笑）。

河野：それまでそういうふうに聴いていなかったのですが、言われてみれば「確かに！」と感動しました。ドラマになると、このシーンは著作権上、曲と曲の間を数秒空けないといけなくて、演技中にピタッとフリーズする姿がおもしろくて思い出に残っています。現場ではそれを計るタイムキーパーさんまでいて、のだめちゃん役を演じた上野樹里さんも手の吹き替えをした私も時間どおりきっちりフリーズしていました（笑）。

二ノ宮：そうだったんですね。現場のそういうことは知らなかったです。おもしろいですね。

河野：ドラマは1話から関わらせていただいて撮影現場を拝見しましたが、全スタッフが漫画を片手に小物とか隅々にまでこだわって、ないものは作るし、忠実に再現しようとしている姿が印象的でした。演奏のシーンでは樹里ちゃんと二人羽織をしたり、樹里ちゃんの隣に座って体をのけ反らせながら弾いたりもしました（笑）。

二ノ宮：樹里ちゃんとの共同作業が長かったんですね。

河野：そうですね、ドラマと映画の演奏シーンのときはずっと一緒にいて、すごくいい経験をさせていただきました。

ひとり遊びが好き

河野：二ノ宮先生ご自身のことについてもお伺いしたいと思います。学生時代はどのように過ごされていましたか？

二ノ宮：子どもの頃は、周りが野山だったので山に登っていました。学校から帰っておにぎりを一つ持って裏山によく遊びに行っていました。

河野：それはお友達と一緒に？

二ノ宮：どちらかというと一人で、頂上まで登ってクローバー畑で遊んだり、秘密の場所を探したりして遊ぶほうが好きでした。テニスも一人でやっていました。

河野：テニスもお一人ですか？

二ノ宮：そう。漫画を読んで、「テニスおもしろそう！」と思うと壁打ちとかを一人でやるんですよ。一人で何かに没頭するのが好きで、友達が帰りに遊びに行こうよと誘ってくれて、今日は写経するからと家に帰ることもありました(笑)。

河野：写経！珍しいですね。

二ノ宮：高校生の頃にはまっていたんですよ(笑)。今思うと周りの子とは全然違うことをやっていましたね。

河野：今まではまってきたひとり遊びの遍歴をお聞きしてもいいですか？

二ノ宮：ずっと絵は描いていましたが、テニス、野球、卓球、バスケなど、一人でずっとボールに向かっていたり、壁打ちしたりできるものにはまっていました。親もたまにはキャッチボールとかに付き合ってくれましたが、一人でやることのほうが圧倒的に多かったですね。

河野：夢中になってとことんやるところは、ちょっとのだめちゃんに似ていますね(笑)。漫画を描くようになったのはいつ頃ですか？

二ノ宮：小さい頃からお絵描きが好きで、お気に入りの漫画をまねて描いていましたが、小学生くらいになると、メモ帳みたいな小さなノートに自作の漫画を描いて、連載と称して毎回友達に見せていました。「おもしろかった」と言ってくれるのがうれしくて、次の日もちゃんと続きを描いて、というのを繰り返していました。

河野：すごい、毎日連載ですね。どのような内容か覚えていますか？

二ノ宮：ギャグや学園コメディーみたいな感じのものだったので、当時からおもしろい雰囲気のものが好きだったんでしょ

うね。中学生の頃からは1、2回ですが漫画雑誌に投稿するようになり、それから賞をとって、本当に漫画家になれるかもしれないと思い始めたのが高校2年生くらいでしたね。

河野：そこからどのようにして漫画家になられたのでしょうか？

二ノ宮：高校を卒業したタイミングで、漫画家を目指すために親から2年間の猶予をもらい、2年経ってだめだったら帰って来いと言われたんですが、あっという間に1年経って。まずい、1作くらい描かなきゃと思って、描いて送ったら担当さんに拾われて、ぎりぎりのところでという感じですね。

「おもしろい」を捉える

河野：最後に読者の先生がたに向けてメッセージをお願いします。

二ノ宮：子どもの数だけ世界があるというくらい、子どもってみんな違っていておもしろいですよね。そうした一人一人の違っていいところを、先生たちにはどんどん伸ばしていただけたらと思います。見ていなくてもおもしろいことがいっぱい起きるので、描くネタもたくさんありそうだなというも感じます(笑)。

河野：二ノ宮先生が描くキャラクターは、みんな個性的だけどその個性が一人一人を輝かせていて、作品の中でいい存在感を放っています。だから読んでいてワクワクするし、こちらが幸せな気分になるのかなと思います。

二ノ宮：ありがとうございます。コンプレックスも含めてみんなさまざまな個性をもっていますが、それをどのような視点で捉えるかということが大事ですね。どんな部分もおもしろいと思って捉えてみると、本当にその人のいいところに見えてきます。そういうふうに関心のあるおもしろい人を書いていけたらなと思っています。





言葉に合わせてリズムを手でたたく

Ask the teacher

授業者に 訊く

渋谷区立
渋谷本町学園中学校



今井由喜先生 (授業者)

今回の「授業者に訊く」でご紹介するのは、渋谷区立渋谷本町学園7年生(中学1年生)の『クラッピングラブソディ 第1番』(長谷部匡俊 作曲)の授業です。地域の小中学校3校を母体とし、平成24年に渋谷区で初めて小中一貫教育校として開校した渋谷本町学園は、1年生から9年生までの児童生徒が生き生きと学習に取り組んでいます。対談では、授業の工夫や大切にされているポイントなどについて、お話を伺いました。

授業者: 今井由喜 (渋谷区立渋谷本町学園中学校 教諭)

聞き手: Vent編集部

本時の授業の位置付け

題材「音楽の構造を理解して表現に生かそう」

教材は長谷部匡俊作曲『クラッピング ラブソディ 第1番』、本時は題材の第1時です。大切にしたいことは次の3つです。

- 読譜を早く楽しく終える。
- 音色の工夫に自然と意識を向けさせる。
- 読譜と並行して音楽の構造に気付かせる。

授業の流れ

学習の内容・学習活動	
導入	○教師が手のたたき方を工夫したり、手をこすり合わせたりしていろいろな音を出す。生徒はそれをまねする。 ○『クラッピング ラブソディ 第1番』の読譜に必要な技能を身に付ける。 読譜のルール: ♪ ♪ コーヒー ♪ ♪ やきそば ♪ ♪ サイダー ♪ ♪ ステーキ
展開	○導入で身に付けた読譜の技能を応用して、『クラッピング ラブソディ 第1番』の☑前半の譜読みをする。 ○☑前半のパートの重なり方の特徴を捉える。 ○重なり方の特徴を生かした演奏の仕方を工夫する。 ○☑後半についても同様に行う。 ○いくつかのグループが、☑を演奏する。 聴いていた生徒が演奏グループの工夫について述べる。 演奏グループは、自分たちの工夫とその意図について述べる。
まとめ	○本時の授業でできるようになったことを整理し、次の授業への期待を高める。

クラッピングと言葉を活用した読譜の授業

休み時間も 生徒で賑わう音楽室

Vent (以下、V) : 授業を通して生徒の学びに向かう姿勢がすばらしいと感じました。教室の席順や机の配置などは何か工夫されていますか？

今井 : 仲のいい友達が隣にいたほうが生徒は歌ったり発言したりしやすいと思うので、席順は完全に自由にしています。ほんとは机を円形に並べたいのですが、教室の広さと人数の関係で、やむをえず今の形に落ち着いています。

V : 生徒たちは皆、一貫校である渋谷本町学園小学校から進級してくるのでしょうか？

今井 : ほぼそうですが、他の小学校から入学してくる生徒も数名はいます。

V : 小中一貫校であることのよさを感じてはありますか？

今井 : 低学年の子どもがかなり上の学年までと触れ合い、その学びの姿を見通せることです。また学習発表会は5～9年生で一緒に取り組みます。

V : それはとてもダイナミックですね。小学生から見たら9年生は大人に感じるとと思います。授業前には、ピアノで『魔王』や『ラ カンパネラ』を弾いている生徒がいましたね。

今井 : 彼に触発されて、日に日に『魔王』の伴奏を弾ける生徒が増えています(笑)。物を壊さなければ勝手に教室を使っていることにしているので、私がいなくても音楽室は生徒で賑わっています。

V : 楽器を使ってもいいのですか？

今井 : はい、ティンパニ以外は使ってもいいと言っています。

V : すごく意欲的ですね。『魔王』は鑑賞の授業を通して、生徒たちも夢中になったという感じでしょうか？

今井 : ここ数年、TikTokなどで授業前から『魔王』を知っている生徒が増えて

います。なので、授業前から興味はもっていますが、授業でさらに夢中になったという感じです。ちなみに、『魔王』の授業のやり方は、生徒に資料を提示して、『魔王』の魅力について探究するというやり方に変えています。

V : 楽譜が読める生徒も一定数いるのでしょうか？

今井 : ピアノを弾いている生徒の多くも耳コピだったり、YouTubeの動画を見て覚えたりしているようです。今日のクラスの中で楽譜をきちんと読める生徒は2、3人くらいだと思います。

V : 3学期までの期間中、7年生の授業で読譜に関する内容を扱われたことはありますか？

今井 : 読譜らしい読譜は今回の授業が初めてです。例えば、リコーダーの授業は基本的に耳コピでやってきています。8年生の終わりか、9年生になってから読譜させることはありますが、授業の導入部分で楽譜を用いることはほとんどありません。

言葉を使って楽譜を読む

V : 『クラッピング ラプソディ 第1番』に登場するリズムのまとまりを、「コーヒー

(J.J.)」や「やさそば(J.J.J)」といった決められた言葉で表現する方法がとても画期的だなと思いました。

今井 : 『クラッピング ラプソディ』や『打楽器のための小品』(黒澤吉徳 作曲)などは、この方法を使うとあっという間に読譜が終わるだけでなく、音楽をまとも(リズムパターン)で捉えられるようになります。

V : 第1時とは思えないほど生徒がリズムをつかんでいましたね。コロナ禍で一躍注目を集めたクラッピング教材ですが、先生の中でこの教材を扱う意義や位置付けをどのように感じていらっしゃるのでしょうか？

今井 : リズムの重なり方や音色の工夫など学習するポイントがさまざまあり、コロナ禍と関係なく合唱教材同様に授業で扱うべき教材だと考えています。

V : この教材で指導する時期は3学期でなくともさまざまな効果がありそうですね。

今井 : 言葉による読譜法を用いると生徒は抵抗なく楽譜に接することができるので、コロナ禍の初期はこの曲を中学入学後の最初の教材にしていました。

V : クラッピング教材は以前から活用されていたのですね。





「♪♪」＝「コーヒー」などのリズムのまとまりと言葉の組み合わせを覚える

今井：『クラッピング ラプソディ 第1番』は、考える要素がたくさんありつつ演奏難易度がそこまで高くないため、生徒はリズムの重なり方の違いなどに自ら気が付くことができます。「手拍子1と手拍子2のパートで音色を変えた」と言ったグループの演奏を聴いて「音色の違いが分からない」と発言していた生徒がいましたが、実はそこがいちばん難しいところです。音色の工夫のない演奏だとリズムの重なりがよさが発揮できないからです。第1時の今日は音の出し方にじっくりと時間をかけられませんでした、それでもパートごとに音色を変えて演奏を工夫したり、それに気が付いて発言したりする生徒

が出てくるのは、授業の導入で私が手を出す音を生徒にまねさせたことが効いているのだと思います。

V：授業は何時間計画を予定されていますか？

今井：3時間計画で、発表まで入れたら4時間くらい。他の題材と並行して扱うとより期間はかかりますが、今日のようにこの題材に集中して行えば、次の時間には曲の仕組みを捉え、表現を工夫しながら最後まで演奏できるようになると思います。今日の授業ではまず、「コーヒー」「やきそば」などの言葉を使って読譜することで、すぐにリズムを打てるようになります。また、今日の授業で㊦の重なり方を前半と後半に分けて2種類

(同じリズムで重なる・違うリズムで音が重ならない)捉えた経験があるので、「㊦の1段目と同じ重なり方をしているのはどこ？」と尋ねれば、生徒はすぐに㊦だと気付きます。そして、㊦はまねっこ、㊦は前半と後半でパートのリズムが入れ替わっているということにも難なく気付くんです。この気付きが表現の工夫

につながるというわけです。

V：発表はどのような形で実践される予定ですか？

今井：グループ発表になると思います。旋律楽器は私が担当します。

V：本日のグループワークで、生徒が各自の演奏の工夫をきちんと言語化して発表する様子が印象に残っています。

今井：おそらく全てのグループができているわけではないのですが、できるグループの発表を私が拾い、他のグルー



教科書の楽譜に言葉を書き込む



○ 今井由喜 (いまい・ゆき)
渋谷区立渋谷本町学園中学校 教諭



グループワークの様子

ブに共有することで、次の時間からの生徒の取り組み方に違いが出てくると考えています。

生徒の学びに合わせた授業計画

V: 新しい学習指導要領の中に“指導と評価の一体化”というものがありますが、年間を通じての指導計画など、先生の中で以前と変わったと意識されていることはありますか？

今井: 生徒の取り組み方を見て、あるいは自分の考えが更新されて授業順序を変更することはよくありますね。当初の授業順序を頑なに守ろうとするとあまりよくないこともあるからです。例えば、今年は『赤とんぼ』を年明けにやったのですが、それは「詩をどう解釈してどう歌うか」という歌曲教材のつながりを考えて、『魔王』のあとにやってみようかなと思い直してのことです。季節感はなくなりましたが、学習のつながりという点では効果的だったと思います。

V: 指導計画に縛られずに授業をするということですね。

今井: 学習指導要領に示されている「演奏のよさ」を指導する例として、私はディートリッヒ・フィッシャー＝ディースカウとジェシー・ノーマンという2人の歌手による『魔王』の聴き比べを行いました。1曲まるごと扱うと生徒は大雑把な違い

しか捉えられなかったりするので、特徴ある一節など、狭い範囲に限定した鑑賞を行います。こうした聴き比べを行うと、「同じ曲でも歌い方がこれだけ違うんだ、じゃあ他の人の演奏も聴いてみよう」と生徒の聴き方も変わってきます。この実践のあとに『赤とんぼ』をやったところ、「やっぱり僕はディースカウの歌い方だな」と言って歌いだす生徒もいておもしろかったです(笑)。

V: 生徒が授業中、積極的に発言できる展開にもっていくための秘訣などがありますか？

今井: 自分の意見をきちんと言語化できる生徒がクラスに必ず1人以上はいるので、彼らが発言しやすい環境を整え、その発言に対して全ての生徒が関心をもてるよう、うまく誘導していくこ

とでしょうか。ICT機器の活用もよい影響があって、例えばMicrosoft Teamsの共同編集機能を使うと、文章を一つのExcelファイルに同時入力させることが可能です。すると生徒は、友達の回答を意識しながら自分の意見をワークシートに入力することができるようになります。学び合いの観点からいえば優れたツールといえるでしょう。

教科書への書き込みで理解を深める

V: 本日の授業では、技能的な部分をどのように評価されますか？

今井: 今日は初回の授業なので、演奏の正誤は評価の対象としていません。ただ、楽譜がしっかり読めないとこの先の授業についていけなくなってしまうので、教科書を回収して書き込みのチェックは行うことにしています。

V: 授業中、「コーヒー」や「やきそば」といった言葉を教科書の楽譜に書き込むよう指導されていましたね。

今井: 楽譜通りにリズムを打てなかったとしても、言葉を使って楽譜がきちんと読めていれば本時はOKです。あとは、楽譜にリズムの重なり方の特徴



グループごとに練習を重ね演奏の工夫などを考える



さまざまなパートを手で打ち
リズムの重なりなどを理解する

などを自分の言葉でしっかり書けているかがポイントになります。

V: 一人一人見るのは大変ですね。

今井: そうですね。でも一問一答や穴埋め問題にしていると、見なくてはいけないところが増えて、採点もおもしろくなくなります。以前は楽譜を使った授業であってもプリントを作っていたが、これまでの人生で自分がこういった曲を練習するときに何をやってたか思い返すと、やはり楽譜に書き込みをしていたんですね。であれば、技能一辺倒にならないよう気を付けていれば、教科書への書き込みだけでも十分評価はできると考え、積極的に教科書提出はさせるようにしています。

V: 旋律楽器は生徒がある程度リズムを打てるようになった授業の後半に、満を持して加えていらっしゃいましたね。

今井: クラッピングは旋律楽器が加わることで演奏が前向きに変化します。一方、全然できない人たちと合わなくなって、ごちゃごちゃになってしまう危険性もありますが、メロディーがガイドとなって演奏がよくなることのほうが多いかなと思います。

V: いいところで先生が旋律を加えられて、今日の時間のまとめとして音楽の躍動感みたいなものを生徒が味わって終わるという授業展開がすばらしく感じたのですが、授業構成は毎時しっかり

とねらって組まれているのでしょうか？

今井: しっかり構成を組むこともあれば、生徒の様子を見ながら進度を変えることもありさまざまです。

V: 最後に、ふだんご指導されている中で、生徒たちへの言葉掛けとして大切にされていることがあれば教えてください。

今井: いちばんは、生徒が自ら考えて答えを導き出せるよう「考えて！」とい

う言葉を上手に使うこと。あとは少し雑ですが、「とりあえずやっちゃいな！」と言うことです。例えば、次の授業に来る9年生の生徒たちは、少し無茶な課題を出しても「やってみたら何とかなるよ」と言うんです。間違えてもいいのでまずは目の前の課題に取り組みせ、生徒が「何か始めたら何かできる」と意識できるような言葉掛けを大切にしています。

｜ 特別対談 ｜ 佐野 靖 先生 × 今井由喜 先生

本号巻頭言を執筆された佐野 靖先生と、本授業者の今井由喜先生による、探究「シブヤ未来科」についての特別対談をWeb記事でご覧いただけます。

https://www.kyogei.co.jp/data_room-vent-vol55_jugyosha-html/



校長先生より

渋谷区ではグローバルな視野をもった主体的な探究活動を充実させ、生きて働く本物の学力を身に付けさせることをねらいとして、探究「シブヤ未来科」を令和6年度から本格実施します。すでに本学園では、教科等横断的な視点に立った学習や探究的な学習の充実に力を入れてきましたが、今井教諭は創作をはじめとする探究的な学びの実践で大きな成果を上げています。あわせて第7学年(中学校第1学年)の学年主任として、「シブヤ未来

科」のカリキュラム開発を進めるなど、学校全体の探究的な学習の充実に大きな役割を果たしています。音楽の授業そして「シブヤ未来科」が生徒の学びのモデルチェンジを加速させる原動力となるよう、今井教諭のさらなる活躍に大いに期待しています。

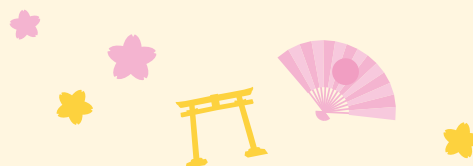
清野 正先生
渋谷区立渋谷本町学園
統括校長





四つ竹を用いた「請戸の田植踊」体験の様子

「うけ ど た うえ おどり請戸の田植踊」から学ぶ 地域の民俗芸能



日本は古くからさまざまな自然災害に見舞われてきました。令和6年能登半島地震や東日本大震災などで被害を受けた地域では、今なお懸命な復旧・復興支援が続けられています。本記事は、被災地の一つである福島県あいづ みさと みやかわ会津美里町立宮川小学校（全校生163名 伊達明美校長）で、令和5年11月22日に実施された特別授業「請戸の田植踊から学ぶ」と、令和6年2月18日に福島県双葉郡浪江町で開催された伝統行事「ふたば なみえまち あんばまつり安波祭」をレポートします。

特別授業「請戸の田植踊から学ぶ」は福島県民俗芸能復興サポート事業の一環として、福島県文化振興課とNPO法人民俗芸能を継承するふくしまの会（以下、ふくしまの会）の主催により実施されました。授業者は宮川小学校教諭の目黒稚子先生。ゲストティーチャーの佐々木繁子さん（請戸芸能保存会会長）から「請戸の田植踊」について直接話を伺う活動を通して生活と音楽の結び付きについて学び、福島県の民俗芸能に親しむことが授業のねらいです。ふくしまの会会員で授業サポーターの山崎純子さんや、同会理事長の懸田弘訓さんなど、福島県の民俗芸能継承に携わった方が出席しての授業となりました。



特別授業の会場となった会津美里町立宮川小学校



目黒先生による「虫送り」の復習の様子。積極的に発言する児童の姿が目にとまった

地域のよさに目を向ける授業

福島県浜通り（太平洋側沿岸）エリアの北部に位置する双葉郡浪江町は、西に阿武隈^{あぶくま}高地、東に太平洋、そして高地から海洋に注ぐ請戸川水系などの豊かな自然に囲まれた町です。「請戸の田植踊」は、この浪江町請戸^{くさの}の荻野神社で毎年2月の第3日曜に催される安波祭において、代々豊漁と豊作を祈念して舞い、奉納されてきた踊りです。

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震と津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を受けた双葉郡は、現在でも多くの住人が福島県内外での避難生活を余儀なくされています。そんな中、人々の絆を踊りと音楽でつないでいきたいという佐々木さんの強い思いによって、震災後の13年間「請戸の田植踊」は各地に避難したあとも途絶えることなく踊り続けられてきました。本授業は、郷土の芸能を守り伝え続けようとしてきた人々の思いを「請戸の田植踊」を通して知り、自分たちの

地域のよさへの気付きのきっかけにしていくことをテーマとしています。

「請戸の田植踊」を学ぶ

今回取材したのは4年生の授業です。宮川小学校は音楽が好きな児童が多く、月の歌に位置付けられている「わらべうた」などを通して、福島県に傳承されているさまざまな歌にも親しんでいます。1学期には、総合的な学習の時間に現在も宮川地区で傳承されている「虫送り」を学習し、会津美里町にある伊佐須美^{いさすみ}神社の御田植祭^{おたうえまつり}においては、初めて「獅子追い」にも参加しました。

授業はまず「虫送り」の復習から始まります。「虫送り」とは、農作物につく虫を供養し、その年の豊作を祈念するために行われる日本の伝統行事の一つです。地区ごとに異なる「虫送り」の歌を発表し合い、地域に伝わる音楽への学習意欲を高めていきます。

次に「請戸の田植踊」の震災前の映像を鑑賞し、歌



や楽器、服装などについて気が付いたことを話し合います。踊りに太鼓や鈴などの楽器が使われていること、また役割によって踊りに違いがあることを学び、さらに太鼓の口唱歌や「四つ竹」と呼ばれる打楽器を用いた田植えの所作など、伝承者の踊りに合わせて歌と踊りの一部を体験することで、「請戸の田植踊」への理解を深めていきました。

人と人、地域を結ぶ民俗芸能

授業の後半は、「請戸の田植踊」が原発事故以降、請戸の人々の生活の中でどのように伝承されてきたのかをテーマとした、佐々木さんによる講話が行われました。

震災同年の8月21日、福島県いわき市で開催されたイベントで「請戸の田植踊」を踊ってほしいと依頼された佐々木さんは、当初、深い悲しみに暮れる被災地で田植踊を踊ってよいものか、たいへん悩まれたそうです。しかし、「私たちにはまだ田植踊が残っている。古くから伝わる民俗芸能をここで終わりにしたくない」という思いから、「請戸の田植踊」の伝承活動が続けることを決意し、子どもたちから希望者を募って練習を始めたと言います。

沈んだ顔をしていた子どもたちが、踊りを通して笑顔になっていく姿を見て、この芸能が子どもたちだけではなく、被災地で生活する請戸の人々の励みや心の支えになることを実感したという佐々木さん。五穀豊穡・大漁祈願のためだけではなく、「請戸の田植踊」が人と人とを結ぶ地域の絆となり、人々が震災から立ち上がるきっかけとなったことを児童が学ぶ講話となりました。



「請戸の田植踊」を模範演技する佐々木さんと山崎さん



模範演技と歌に合わせて熱心に踊りに取り組む児童の様子



自身の体験を語る佐々木さん



地域の「わらべうた」に親しむ様子

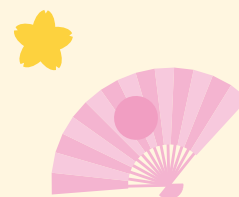
教科横断的な学びへのつながり

授業後に行われた指導講評の場で目黒先生は、身近な民俗芸能(虫送り)から始めて、地域の民俗芸能(請戸の田植踊)を学び、また身近な民俗芸能(伊佐須美神社の御田植祭)に帰るという授業構成が、児童の深い学びにつながったと振り返りました。目黒先生は、芸能体験を「楽しかった」「すばらしかった」という感想だけで終わらせず、同じ福島県の民俗芸能を伝承してきた人々の思いを知りながら、自分たちが住む地域の民俗芸能にも意識を向け、教科横断的な学びへとつなげていくことが重要だと述べられました。

また、ふくしまの会の山崎さんは、民俗芸能を音楽教育の中に取り組む意義として、(1)民俗芸能は日本の伝統的な教材であるとともに、音楽科と他教科とを関連付けた教科横断的な取り組みが可能であり、それによって子どもたちの深い学びにつながる、(2)地域の民俗芸能であれば、地域の伝承者から学ぶことができる、(3)学校教育で地域の民俗芸能を扱うことは、民俗芸能の継承にも貢献できる、(4)幼い頃から見聞きしているので、子どもたち自身の興味関心に結び付きやすい、という4点を挙げられました。「民俗芸能をどのように授業で扱えばよいのか分からない」という声を耳にする中で、本授業が民俗芸能を学校教育に取り入れるうえでの一つの指針になるだろう」と述べ、「東日本大震災、津波、原発事故という困難を乗り越えてきたこの芸能を学び、震災・復興教育にもつなげていきたいと考えている」と締めくくりました。

【本授業の関連教科】

- 国語科
- 社会科
- 音楽科
- 特別の教科 道徳
- 総合的な学習の時間



民俗芸能を未来につなぐ

ふくしまの会理事長の懸田さんによると、昭和50年代に約1,200種あった福島県の民俗芸能は、震災前年の平成22年の調査で約800種、震災・原発事故後の令和元年の調査では約600種にまで激減していると言います。「請戸の田植踊」を継承する浜通りでは、430種あった民俗芸能団体のうち、平成23年の津波の被害で約60種、原発事故による避難と合わせて約210種が継承困難となり、さらにコロナ禍がその数に追い打ちをかけました。その中で特に被害が多かったのがこの田植踊で、浜通りに約70あった団体のうち、復活したのが実質7団体と、その数は1割です。

震災後、いち早く「請戸の田植踊」の復興に着手した佐々木さんによると、田植踊の練習を通して「震災後、初めてわが子が笑顔を見せた」と涙する保護者の姿があったと言います。単に民俗芸能を継承するだけにとどまらず、それをきっかけとして人々の絆を深めていくこと、そして本授業のような実践を通して、身近な地域や芸能のよさへの気付きを深めていくことが、子どもたちの学び、そして民俗芸能の未来につながっていくと実感する取材となりました。



再建された荏野神社



「請戸の田植踊」の様子



再建された社殿の下で開催された安波祭

令和 6 年 2 月 18 日の安波祭当日は、雲一つない穏やかな青天となりました。開催地の荇野神社は東日本大震災の津波により大きな被害を受けましたが、昨年夏頃から再建が進められ、この度の安波祭開催に合わせて新しい社殿がお披露目されることとなりました。13年ぶりに社殿の前で催される安波祭を一目見ようと、会場には氏子や元住民、報道関係者など、県内外より多くの人々が集まりました。

午前10時、浪江町長 吉田栄光さんの挨拶に続き例祭、竣工奉告祭が催行され、また一連の神事に加え、巫女神楽の一つである「浦安の舞」が披露されました。

神事を終え来賓用のテントが捌けられると、獅子による力強い神楽と、赤や青の色鮮やかな衣装を着飾った12名の踊り手たちによる「請戸の田植踊」が奉納され、祭りは締めくくられました。

安波祭の取材を通して、宮司の田村貴正さんが仰った「神社の再建は若い世代、次の後継者がいなければ成り立たない。この社殿、伝統を後世に伝えていかなければならない」という言葉が印象に残っています。現在、各地の民俗芸能が直面しているという文化継承の問題。その解決の糸口として、本授業実践が未来を担う子どもたちの気付き、興味関心、そして深い学びへとつながっていくことを願っています。

(ヴァン編集部)



神楽の様子



新しい社殿の前で舞われた「請戸の田植踊」

特集

〔中学校用教科書 内容解説資料〕

新しい『中学生の音楽』 『中学生の器楽』のご紹介

1年 表紙テーマ：音楽との出会い



2年 表紙テーマ：音楽をつくる、鑑賞する



3年 表紙テーマ：歌う、合唱する



器楽 表紙テーマ：奏でる、合奏する

表紙装画：新井陽次郎

令和7年度から中学校用教科書『中学生の音楽』『中学生の器楽』が改訂されます。教育芸術社では、音楽科の果たす役割を考えながら、学校教育における今日的な課題にも対応した、新しい時代にふさわしい教科書を目指して編集してまいりました。



○ 中学生の音楽

- 改訂のポイント ① 学びたくなる
- 改訂のポイント ② 学びが分かる
- 改訂のポイント ③ 学びが深まる

○ デジタルコンテンツ・新曲紹介

○ 中学生の器楽 (改訂のポイント①～③)

表紙のイラストは続き絵になっています。
3年間の学習がつながり、深まるようお願いを込めたものです。

中学生の音楽

改訂のポイント

1

学びたくなる

人と音楽、社会と音楽との様々な関わりを知ること、生徒が主体的に学びたくなります。

自ら考える力を引き出します

巻頭ページでは、各界で活躍するかたから中学生へのメッセージとして、音楽や芸術とご自身との関わりについて語っていただきました。自ら考える力を引き出し、学びに向かう力や「音楽的な見方・考え方」の育成を後押しします。



つくりあげる
喜び

二次元コードから、メッセージ動画にアクセスすることができます。中学生へのメッセージをご覧ください。

1年p.2
俳優・歌手：上白石萌音

学校現場からの支持が厚い歌唱教材

新しい教科書でも、これまで厚い支持を得ている数々の歌唱教材を引き続き掲載しています。



3年 p.82



2年 p.82



1年 p.30



3年 p.76



2年 p.76



2年 p.14

中学生の音楽

改訂のポイント

2

学びが分かる

何を学ぶのか、どのように学ぶのか、何を考えるのかを明確に示すことで、学びが分かります。

音楽科で身に付けられる資質・能力が一目で分かります

目次に続くページに、学習指導要領に示された三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を示した「学びの地図」となる内容を配置し、この教科書を通して身に付けられる学力が一目で分かるようにしました。

1年間で学習する
内容が分かる
「学びの地図」



三つの柱 資質・能力の

生徒にとっては、各教材を通して自分がどのような音楽の力を身に付けられるのかを確認する際の参考に、指導者にとっては、1年間の学習指導計画を立てる際の、また評価規準を考える際の参考になることができます。

「中学生の音楽1」の学習内容

このページでは、皆さんが音楽科で

学びに向かう力、人間性等

音楽によって生活を明るく豊かなものにしよう

歌唱

表現

創作

知識や技能を得たり生かしたりしながら、

歌唱表現を
創意工夫する

曲想と音楽の構造や
歌詞の内容との関わり
音色や響きおよび言葉の特性と
曲種に応じた発声との関わり

発声、発音、身体の使い方

全体の響きや各声部を
聴きながら他者と合わせる

ウィー・ウィー・ウィー・ウィー
We'll Find The Way 10

音色 テクスチャ

その先へ 12

強弱 強弱

主人は冷たい土の中に 18

強弱 強弱 形式 構成

浜辺の歌 22

リズム 強弱 強弱 形式

赤とんぼ 28

強弱 強弱 強弱

夢の世界を 30

音色 リズム テクスチャ 構成

君をのせて 34

強弱 テクスチャ 強弱

ソーラン節 60

音色 強弱 テクスチャ

知識や技能を得たり生かしたりしながら、

創作表現を
創意工夫する

音のつながり方の特徴
音素材の特徴および構成上の特徴

課題や条件に沿った
音の選択や組み合わせ

マイ・メロディ
My Melody

音のつながり方の特徴を

生かして旋律をつくろう。

リズム 強弱

20

Let's Create!

構成を工夫して、

3つの場面の音楽をつくろう。

音色 テクスチャ 強弱 構成

38

分かりやすい紙面構成で、確実な学びを実現します

心の歌 浜辺の歌

「浜辺の歌」は、浜辺の情景が描かれた歌詞と、その様子を表すような旋律や伴奏が特徴的な曲です。

※各教材の104～112ページに、それぞれの教材で描かれた情景や、歌詞の読みかた、演奏の仕方などが示されています。

104～112 練習

1 あ し た は まーべーをーまーまーえーばーむ
2 ゆーべーは まーべーをーもーとーおーれーばーむ

1年 p.24

NEW 楽曲の紹介文

どのような曲なのかを簡潔に示すことで、生徒が見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができます。
※共通教材と鑑賞教材に示しています。

NEW 考えたいポイント

「問いかけ」をすることで、生徒が課題意識をもち、主体的に学習に取り組むことができます。さらに、「見方・考え方」を働かせることで深い学びにもつながります。

学習する内容を示しています。

それぞれの教材で
どのようなことを学習
するのか。確認する
ことができます。



鑑賞

知識を得たり生かしたりしながら、
曲や演奏に対する評価とその根拠
生活や社会における意味や役割
表現の共通性や固有性

自分なりに考え、
味わって
聴く

曲想と音楽の構造との関わり
音楽の特徴とその背景となる
文化や歴史、他の芸術との関わり
日本やアジアの音楽の特徴、音楽の多様性

イメージと音楽	36
春	42
魔王	46
音楽「平調 越天楽」	52
歌曲「六段の調」	56
日本の民謡	58
アジアの諸民族の音楽	64

音楽を形づくっている要素 (p.92)

音色	声や楽器の音色、身の回りの音など
リズム	拍や拍子、さまざまなリズムパターンとその反復や変化など
速度	ふさわしい速度の設定や速度の変化など
旋律	音のつながり方、フレーズ、旋律のもととなる音階や調など
テクスチャ	和音やハーモニー、音や旋律の重なり方など
強弱	ふさわしい音量の設定や音量の変化など
形式	音楽のさまざまな形式など
構成	反復、変化、対照など

各教材に示した「音楽を形づくっている要素」は、本書の学習内容に即したものに抑っていますが、授業に合わせて適宜増減して扱うことができます。

教材と学習内容との関連

ここでは、各教材で扱うことのできる学習内容を全て示し、その関連度の大小を、下のように色の濃さで表しています。実際の授業においては、教材のねらいに応じて、適宜学習内容を選ぶことができます。



〔共通事項〕に示されている
音楽を形づくっている要素



中学生の音楽

改訂のポイント

3

学びが深まる

主体的・対話的で深い学びを実現する「学びのコンパス」で、生徒の学びがより深まります。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手立てを示しました

教科書の手順に沿って学習を進めることで、主体的・対話的で深い学びを実現することができます。また、ワークシートを使うことで、生徒が自分の考えを整理しながら学習を進めることができます。

歌唱

NEW

新設の「学びのコンパス」で、**主体的・対話的で深い学び**を実現します(歌唱7教材)。

二次元コードからワークシートをダウンロードすることができます。

主体的な学び

学びの手立てを示すことにより、**見通しをもって学習に取り組む**ことができます。



対話的な学び

生徒どうしや指導者との対話を促すことで、**自己の考えを広げたり深めたり**することができるようにしました。

深い学び

「**見方・考え方**」を働かせて深い学びを実現するための手立てを適宜示しています。

学びのコンパス 旋律の特徴や曲の構成を捉えよう

1 楽譜を見たり歌ったりしながら、「主人は冷たい土の中に」の各段の旋律の特徴や強弱などがどのようにになっているかを確かめ、下の表に書きましょう。

	旋律の特徴 (リズムや音の上がり下がり)	強弱	終わりの 音の階名	旋律の 雰囲気
1 段目	途中で音が跳躍して音の高さが大きく変化する部分がある	mp	レ	続く感じ
2 段目				
3 段目				
4 段目				

2〜4 段目については、1 段目と比べて同じところ、または違うところを書こう。

2 ①で書いたことをもとに、この曲の旋律の特徴や曲の構成がどのようにになっているか、**グループで話し合**いましょう。

3 ②で話し合ったことを踏まえながら、どのように歌いたいかを考え、表現の仕方を工夫しましょう。

3 段目は、旋律の特徴が他の段とは異なっているので、気持ちが伝わるようにのびやかに歌いたい。そのためにはどんな工夫をすればいいかな。

おなかの支えをしっかりと保ちながら、息の流れが喉のように伸びていくイメージで声を出すと、のびやかに歌うことができるよ。

4 4 段目には○が付いています。○を付けて歌うことによって、どのような感じになりますか。○の付いた音をどのように延ばすとよいか、また、○の後は、強弱や速度をどのように工夫して歌えばよいか考え、いろいろな表現を試してみましょう。

この曲のように長調の場合、旋律は、ドで終わると終わる感じ、ド以外の音で終わると続く感じになります。

表が完成したら、もう一度歌って確かめてみよう。このような曲の構成を、二部形式というよ。

二部形式 p.96

アンダンテ Andante p.97

フォルマータ p.97

二次元コードからワークシートをダウンロードすることができます。

19

各領域、分野の教材の内容を工夫し、より学びやすくしました

学校現場からのご意見やご要望を踏まえて、確実に学習目標に迫ることができるよう、内容をブラッシュアップしました。

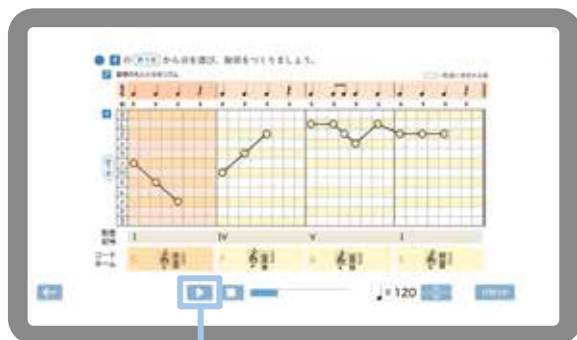
創作 ICTの活用

思いや意図をもって創作に取り組めるように、キャラクターの吹き出しや設問の内容に配慮しました。



1年 p.20

デジタルコンテンツは、教科書紙面と同じ体裁になっています。



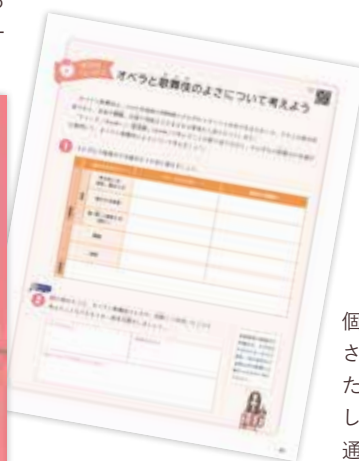
※上記画面は開発中のものです。

つくった旋律を簡単に再生することができます。
自分の思いや意図が反映されているかを確認したり、
作品を共有したりする際にも活用できます。

生涯にわたり音楽文化に親しむきっかけとなるよう、総合芸術であるオペラや歌舞伎の流れを受けて、中学生に比較的なじみのあるミュージカルについて新たに掲載しました。



2年 p.52



2年 p.61

鑑賞

音楽の多様性を
理解する

個々の音楽の特徴を捉え、さらに複数の音楽を比較したり関連付けたりするなどして、それぞれの音楽の共通性や固有性を理解できるように工夫しました。

中学生の音楽

我が国や郷土の音楽文化を尊重する態度を育みます

自国の文化に対する誇りをもつことができるよう、我が国の様々な伝統音楽や伝統芸能を取り上げたり、生徒が興味・関心をもって自分の住む地域の文化に親しむことができるよう、各地に伝わる民謡をはじめ、祭りや芸能を取り上げたりしました。



2年p.57



2年p.60

見通しと振り返りによって主体的な学びを実現します

1年間の学習を見通したり振り返ったりする場面を設けることで、生徒が主体的に学びに向かい、学習を深めることができるように配慮しました。

「学びの地図」で学習の見通しをもつ



1年p.8

各教材の学習

1年間の学びを振り返る(身に付いた力でプレゼンする)



1年p.91

音楽の学習を通して社会とつながります

音や音楽が、生活や社会、文化とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのかといったことに生徒が意識を向けることができるようなページを設けました。

生活や
社会の中の
音や音楽



3年p.66

学年に応じたテーマ(1年「音や音楽の果たす役割」、2年「人と人をつなぐ音楽」、3年「仕事と音楽」)を基に、音や音楽と、生活や社会、文化との関わりについて、段階的に視野を広げて考えられるよう工夫しました。

3年生では音楽とSDGs(持続可能な開発目標)との関わりを紹介しています。

デジタルコンテンツ

豊富なデジタルコンテンツで、授業や個別最適な学びを支えます

ICTを活用した授業を行えるよう、二次元コードには学習に役立つ様々なデジタルコンテンツをご用意しました。



歌唱共通教材の
演奏と風景動画



350点を超える
コンテンツ！

再生部分が一目で分かります



鑑賞曲の譜例を再生



スムーズな学習を
サポートする創作ツール



※画面は開発中のものです。

新曲紹介

中学生への思いを託した新作の一部をご紹介します。

天球図

覚 和歌子 作詞／森山至貴 作曲

1年 p.80 混声二部

自分自身を見つめ、そして認めることの大切さをうたった歌詞と、温もり溢れる優しい雰囲気の旋律を味わいながら歌いたい作品。



覚 和歌子さん



森山至貴さん

14 -fourteen-

弓削田健介 作詞・作曲

2年 p.87 混声三部

多感な時期である14歳の子どもたちが抱く複雑な思いがドラマティックなピアノに誘われ、壮大なスケールで歌われる。「立志式」などの校内行事にもふさわしい一曲。



弓削田健介さん

タイムリーパー

覚 和歌子 作詞／三宅悠太 作曲

3年 p.78 混声三部

アニメの主題歌のような世界観をもつ歌詞と、それに心揺さぶられた三宅氏の躍動感溢れる旋律との相乗効果を体感できる作品。



覚 和歌子さん



三宅悠太さん

Bodipa Beats Z

石若 駿 作曲

器楽 p.86 ボーディー パーカッション

手拍子、もも打ち、足踏みによる軽快なリズムに、演奏者はもちろん、聴いている人も一緒に楽しく盛り上げられる。模範演奏の動画も活用しながらチャレンジしたい一曲。



石若 駿さん

各曲の演奏動画はこちら

<https://www.youtube.com/playlist?list=PL1jOy1aqdKQD1S7gaOV5EbBejLNfZVodm>



中学生の器楽

改訂のポイント

①

器楽の学習に向かう意欲を引き出します

『中学生の器楽』も『中学生の音楽』（音楽一般）と同様、学びに向かう力や「音楽的な見方・考え方」の育成を後押しし、幅広い価値観を養うことができるように内容を工夫しています。



器楽 p.2
打楽器奏者、ドラマー：石若 駿

きっかけと情熱

様々な角度から音楽を捉える
「音楽って何だろう？」

器楽 p.4

音楽・文芸批評家：小沼純一



楽器と人

自ら考える力を引き出します

改訂のポイント

②

音楽科で身に付けられる資質・能力が一目で分かります

目次に続くページに、学習指導要領に示された三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を示した「学びの地図」となる内容を配置し、この教科書を通して身に付けられる学力が一目で分かるようにしました。

器楽の
学習が
見通せる

三つの柱
資質・能力の

生徒にとっては、各教材を通して自分がどのような音楽の力を身に付けられるのかを確認する際の参考に、指導者にとっては、学習指導計画を立てる際の、また評価規準を考える際の参考にすることができます。



器楽 p.8

〔共通事項〕に示されている
「音楽を形づくっている要素」

改訂のポイント

3

生徒の興味・関心を広げます

生徒の多様な興味・関心を引き出し、好奇心に働きかけるような内容を取り上げています。



バンド
スコア

他ジャンルとの
コラボレーション

全ての人にとっての 使いやすさを目指して

UDフォントの使用

UDフォントを大部分に使用しています。タイトルや文章だけでなく、楽譜中の歌詞にも使うことで、可読性、可視性が高まり、より学習しやすくなりました。



1年 p.24

特別支援教育の視点に立った配慮

歌詞や文章を写真中に入れるときには、無地の部分に配置したり白文字を使用したりすることで、誰もが読みやすい紙面を目指しました。全体にレイアウトや囲みの形を工夫し、視認性の高い紙面構成としました。



3年 p.10

教科書の内容解説動画はこちら
<https://www.kyogei.co.jp/textbook/jh/jh-r7>



中学時代の かけがえのない 合唱の時間

特別
インタビュ

俳優・歌手 上白石萌音

聞き手 ヴァン編集部

特集「新しい『中学生の音楽』『中学生の器楽』のご紹介」に続き、『中学生の音楽1』の口絵にご登場いただいた上白石萌音さんのインタビューをお届けします。ドラマや舞台、歌手としても活躍する上白石さんにとっての音楽の授業とは？——鮮明な記憶として残る中学時代を熱く語ってくださいました。

ミュージカル教室の恩師

Vent (以下、V)：『ヴァン』では、かつて上白石萌音さんの初主演映画『舞妓はレディ』を監督した、周防正行さんにインタビューしたことがあるんです。

上白石：そうなんですか！

V：周防監督が「上白石さんをオーディションで発掘することができたから、この映画のシナリオが書けた」とおっしゃっていたのがとても印象的でした。オーディションを受けられたのは中学生ぐらいのときですか？

上白石：そうですね。

V：監督が驚いたという表現力や歌唱力は、どのようにトレーニングされていたのでしょうか？

上白石：5歳のときからミュージカルの教室に通っていたので、芸事に臨む姿勢やみんなで作るものをつくること、自分の心と芸を磨くとはどういうことかなど、とても厳しく愛情をもって先生に教えてもらいました。幼いときにこうした場所で学べたのが、今の基盤になっていると思います。それから、家庭や生活の中で音楽に触れる機会が多く、純粋に音楽に対する環境に恵まれていたので、歌うことや表現することへのモチベーションにつながったと感じます。

V：教室時代のトレーニングで、大変だったことはありますか？

上白石：教室に通っていた頃は、主役を演じることもなかったですし、2時間の公演中にせりふがたった二言、ということもありました。自分より年下の子や先輩のすごい人たちを見て、「どうしてあんなふうになれないんだろう」と思うなど、劣等感を味わっていました。ただ、とにかく舞台に立てること、音楽の中の一員になれるということが何よりうれ



● 上白石萌音 (かみしらishi・もね)

1998年1月27日生まれ。鹿児島県出身。主な出演作として、映画『舞妓はレディ』『君の名は。』『夜明けのすべて』、ドラマ『恋はつづくよどこまでも』『カムカムエヴリバディ』、舞台『ジェーン・エア』などがある。エッセイや翻訳の執筆をするほか、ナレーターとしても活動。武道館ライブや2023年で3年連続となる『yattokosa』Tourなどを行う歌手でもある。2024年は日本とロンドンで、舞台『千と千尋の神隠し』の主人公:千尋を演じる。

しかったんです。

V：ミュージカル教室の先生の指導で、印象的だったことを教えてください。

上白石：上手になりたいなと思っていたのががんばれましたが、もうたくさん怒られました。

V：厳しい先生だったんですね。

上白石：はい。でもいまだに一番の相談相手ですし、舞台も必ず観に来てくださいます。舞台で大切なのは主役だけではないこと、実際には裏方をはじめとする一人一人の力があって作品が出来上がることを教えてください、その考えを今でもとても大切にしています。オーディションを受けてみなさいと言ってくださったのも先生ですし、私の中ではなくてはならない存在です。

今も歌える『時の旅人』

V：中学時代の学校の音楽の授業について、覚えていることなどありますか？

上白石：音符の読み方の学習です。これが今の仕事に直結しているんです。今も新しいミュージカルの稽古の前には、家でずっと“タン・タンタンタン”とリズム練習をやっていて、

あの頃の学びがこんなに活きたとは思っていませんでした。あとは歌舞伎をはじめとした伝統芸能や、邦楽などもすごく充実していますよね。お箏を弾く役と三味線を弾く役をしたことがあります、そのときに「あっ、教科書に載っていたな！」と思いました。ビートルズの『ヘイ・ジュード』も授業で歌いましたし、いかに幅広いジャンルの音楽を取り扱っていたかということを再認識しています。また、今になって宝物だなと思うのがやっぱり合唱です。大人になると合唱ってしないんですよね。仕事で歌うミュージカルは、ある意味合唱ですけど、男の子と女の子がみんなで朝や放課後に練習して同じ曲を歌うというのは、たぶん中学校が最後になる人もいるのではないのでしょうか。今でも中学校の合唱の時間に戻りたい！と思うときがあります。合唱曲をみんな覚えていて、世代が違って同じ曲を知っていることもあるので「合唱祭で何を歌った？」と盛り上がれるんです。思春期の子にとっては「なんでこんなことやらなきゃいけないんだ」とか「恥ずかしい」と思うかもしれませんが、大人になったらきっと恋しくなると思います。

V: 印象に残っている合唱曲はありますか？

上白石: やっぱり『時の旅人』が大好きです。私のクラスでは歌えなかったのですが、歌いたい曲でした。私、自分のクラスで歌っていないのに完璧に歌えるんですよ(笑)。いまだに妹と2人で『時の旅人』を歌っていて、すごく盛り上がります(笑)。合唱はほんとうに尊い貴重な経験だと思いますね。

V: これから同じ経験をするであろう中学生たちに、伝えたいメッセージがありましたらお願いします。

上白石: 私たちの世代、自分が住んでいた地域では「中学生ってがんばらないほうがカッコいい」という(笑)、風潮があったんです。ちょっと気だるげな感じで、音楽の授業でもあまり歌わないのがカッコいい。そういう雰囲気のクラスでした。でも、今になって思いますけれど、一生懸命歌っていたほうがすてきです。もちろん恥ずかしいし、嫌だなんて思いは痛いほど分かるんですが、みんなが明るい気持ちで歌えるクラスであってほしいなと、まずは思いますね。恥ずかしかったり「めんどくさい」と言ったり、合唱祭の準備でクラスがケンカしたりとか、そういう経験さえも貴重な学びです。それすら大人になったときに恋しくなるし、体験していてよかったと思うので、音楽の授業にまつわる全ての感情を大切に覚えていてほしいです。

音楽から学んだこと

V: 上白石さんご自身はどんな中学生だったのですか？

上白石: すごく矛盾しているんですが、基本的に目立ちたくないという気持ちが強かったです。思春期特有ですね。

なるべく目立ちたくないけれど、応援団や生徒会をやってしまう(笑)。なぜかという、どちらもクラスから誰かを選ばなければいけないのに、クラスがクラスだったので誰も手を挙げない。先生が困っていると「ああもう！やります！」と言ってしまう性格でした。あのときは「誰もいないから、じゃあやるよ」と思っていたのですが、今振り返るとほんとうによかったなって。すごく楽しかったです。

V: クラスに斜に構えた雰囲気がある中で、すごい責任感ですね。

上白石: どちらの気持ちもととてもよく分かったので…。

V: 揺れ動いていたんですね。

上白石: そうなんです。誰も挙手しないことでホームルームが進まないのが、すごく嫌だったんです。「だったら私がやるっ！」という感じでしたね。

V: 短い時間でしたが、とても楽しいインタビューになりました。ありがとうございます。

上白石: 中学時代の甘酸っぱい気持ちが、いっぱいよみがえってきました(笑)。あともう一つ思い出しました。とても大事だなと思うのが、日本の伝統的な音楽を聴くことをはじめ、イタリアのオペラやアジアの民族音楽といった、さまざまな国の多様な音楽を知り、世界は広いという実感が得られたこと。そこからさらに、世界の国々の人々が、みんな音楽とともに生きていると思えたことが、今の自分の支えになっていると感じます。世界中どここの地域に行っても、どの時代に生きていても、絶対に音楽が生活の中にあるんだと強く感じます。それぞれみんな違うけれど、根の深い部分ではみんな一緒という、そういう価値観も音楽に教えてもらった気がします。



協力：東宝芸能
写真撮影：板橋淳一

音楽診断

Kyogei
Presents

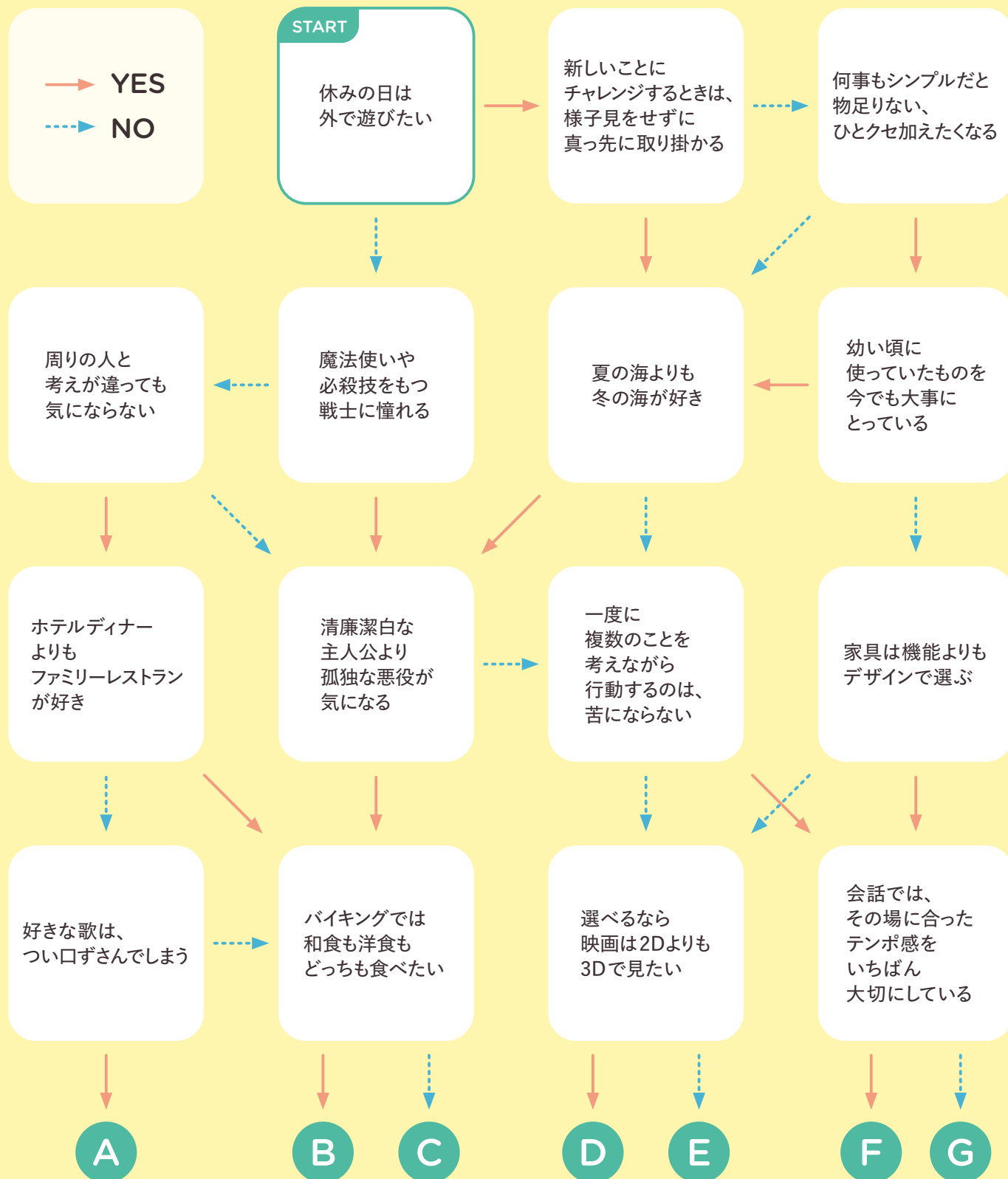
第20回

昭和のテレビドラマ・アニメを支えた作曲家たち編



巻頭インタビューの二ノ宮知子先生と(強引に)関連させて、今回はテレビドラマやアニメのテーマ曲をつくった作曲家をご紹介します。解説は昭和の思い出を語らせたら右に出るものはいないコラムニスト、泉麻人さんです。

監修・解説 = 泉 麻人 Text = Asato Izumi



テーマに寄せて

1953年(昭和28年)にテレビ放送が始まって、およそ70年が経ちました。その3年後に生まれた筆者(泉麻人)は、小学校の音楽の時間に習う唱歌や童謡より先にテレビ番組のテーマソングやCMソングに親しんできました。今回、編集部からの依頼もあって、そんな昭和時代のテレビ音楽の作家を7名選んで解説しました。紙幅の都合もあって、物故者に限らせてもらいましたが、語りたい方はまだまだたくさんあります。

あなたにおすすめの作曲家は？

A 風刺を効かせた独自の世界観をもつ開拓者 三木鶏郎(みき・とりろう) 1914～1994

CMソングの大家、あるいは娯楽ラジオ番組の草分け『日曜娯楽版』の主宰者としても有名だが、CMの流れでアニメ番組のテーマ曲も手掛けている。スポンサーのグリコの名を織りこんだ『鉄人28号』や『トムとジェリー』…曲だけでなく詞も冴えている。



© 光プロ/秋田書店

B 多彩な表現で物語を彩る影の立役者 木下忠司(きのした・ちゅうじ) 1916～2018

木下恵介の次弟で当初は俳優としても映画に出ていたが、昭和40年代以降はTBSの『木下恵介アワー』の音楽で知られた。個人的にはコミカルな『おやし太鼓』が好みだったが、一連のドラマの常連、あおい輝彦が歌った『二人の世界』はチャート入りするヒット曲となった。



© 松竹/木下恵介プロダクション

C 叙情性とかっこよさで子どもたちを虜にした 小川寛興(おがわ・ひろおき) 1925～2017

『月光仮面』『七色仮面』『快傑ハリマオ』『隠密剣士』…昭和30年代の“実写ヒーロー物”の作曲というこの人が第一人者。軍歌の面影漂うマイナー調の楽曲が多かったが、一方、昭和40年代には『虹色の湖』(中村晃子)などのモダンな歌謡ポップスもヒットさせた。



© 川内康範/宣弘社

D ダイナミックなサウンドで魅了する 渡辺宙明(わたなべ・ちゅうめい) 1925～2022

同じ渡辺姓の渡辺岳夫とともに昭和30年代のヒーロー活劇の時代から活躍していたが、その名が広く知られるようになったのは70年代に入って水木一郎が歌った『マジンガーZ』あたりからだろう。バババ、ダダダン、などの擬音でインパクトを付ける編曲が真骨頂。



© 永井豪/ダイナミック企画

E 洗練されたスタイルで親しみやすさ抜群 宇野誠一郎(うの・せいいちろう) 1927～2011

『チロリン村とくるみの木』を皮切りに『ひょっこりひょうたん島』『ネコジャラ市の11人』と、NHKの夕刻の人形劇の音楽が印象に残る。アニメの代表作は『ムーミン』だろうが、ジャズやロックのテイストを取り入れたサウンドはいま聴いてもシャレている。



© 井上ひさし/山本護久・ひとみ座・NEP

F 即興的なノリとセンスが光る 山下毅雄(やました・たけお) 1930～2005

この人もジャズセンスの曲が特徴。出世作の『七人の刑事』を始め、スキヤットやインストの曲(『時間ですよ』『ブレイガール』…)が耳に残るが、アニメでは『スーパージェッター』が白眉。主題歌はもちろん、挿入歌『流星号マーチ』のサビはいつ聴いてもジンと来る。



© マンガショップ

G マルチな才能を発揮したメロディーメイカー 小林亜星(こばやし・あせい) 1932～2021

三木鶏郎と同じくCMのヒット作も多いが、僕がその名を知ったのは草創期のTVアニメ『狼少年ケン』。ポバンパバン…とアフリカンなビートで始まるテーマ曲を聴いて、ぶっ飛んだ。『怪物くん』など名曲は多々あるが、ガタイをいかしてタレントでも活躍した。



© マンガショップ

泉 麻人(コラムニスト)

1956年東京生まれ。慶応義塾大学商学部卒業後、東京ニュース通信社に入社。「週刊TVガイド」「ビデオコレクション」の編集者を経てフリーに。東京や昭和、サブカルチャー、街歩き、バス旅などをテーマにしたエッセイを多数発表。著書に『昭和50年代東京日記』(平凡社)、『銀ぶら百年』(文藝春秋)、『泉麻人自選 黄金の1980年代コラム』『1964 前の東京オリンピックのころを回想してみた。』(以上、三賢社)、『大東京のらりくらりバス遊覧』(東京新聞)、『夏の迷い子』(中央公論新社)、『冗談音楽の怪人・三木鶏郎』(新潮選書)、『東京23区外さんぽ』『東京ふつうの喫茶店』『東京いつもの喫茶店』『箱根駅伝を歩く』(以上、平凡社)など。



研究大会

10 月

October

10 日 (木)・11 日 (金)

令和6年度 全日本音楽教育研究会 全国大会
旭川上川大会
第66回 北海道音楽教育研究大会 旭川上川大会
旭川市民文化会館 他

〈大会主題〉

音とつながる 心がつながる 学びがつながる

[問い合わせ]

令和6年度全日本音楽教育研究会全国大会 旭川上川大会 事務局
旭川市立旭川第五小学校・桜岡中学校 校長 坂東裕美
〒078-8201 北海道旭川市東旭川町東桜岡72
TEL 0166-36-3441/FAX 0166-36-5321
kouchou@sakuraoka.jhs.asahikawa-hkd.ed.jp

31 日 (木)・11 月 1 日 (金)

第65回 九州音楽教育研究大会 沖縄大会
アイム・ユニバース てだこホール 他

〈大会主題〉

伝え合おう 音楽の喜び
つなげよう 未来に向かって

[問い合わせ]

八重瀬町立東風平中学校 教諭 西平守良
〒901-0401 沖縄県島尻郡八重瀬町字東風平267番地
TEL 098-998-2107/FAX 098-998-2958

11 月

November

1 日 (金)

第55回 中国・四国音楽教育研究大会 広島大会
第60回 広島県小学校音楽教育研究大会
第55回 広島県中学校音楽教育研究大会
令和6年度 広島県高等学校教育研究会音楽部会研究大会

エリザベト音楽大学
RCC文化センター

〈大会主題〉

つなげる ひろげる 音楽でしあわせ

[問い合わせ]

広島市立五日市小学校 校長 河野陽子
〒731-5127 広島市佐伯区五日市三丁目1-1
TEL 082-921-3288/FAX 082-923-9744
hiroshimakenonkyo@gmail.com

8 日 (金)

第72回 東北音楽教育研究大会 山形大会
第30回 山形県音楽教育研究協議会 村山大会
山形テルサ 大ホール 他

〈大会主題〉

「つながろう音楽と つながろう音楽で」
～心が動く楽しい音楽の授業づくり～

[問い合わせ]

山形市立高楯中学校 教頭 須藤由美子
〒990-2235 山形市大字中里38
TEL 023-686-6029/FAX 023-686-4185
kyoto@takadate-j.yimgt.ed.jp

8 日 (金)

第66回 近畿音楽教育研究大会 和歌山大会
第61回 和歌山県音楽教育研究大会
和歌山市・海草地方大会

和歌山城ホール 他

〈大会主題〉

《つながろう》《広げよう》《深めよう》
～心に響く音楽を～

[問い合わせ]

和歌山市立楠見中学校 教諭 久保真紀
〒640-8471 和歌山市善明寺706番地
TEL 073-453-6300/FAX 073-453-6302
<https://wakayamaonren.wixsite.com/onren>
(和歌山県音楽教育連盟 HP)



教育芸術社ホームページでは、
この他の研究大会やイベントなどの
情報も掲載しています。

https://www.kyogei.co.jp/data_room/event/

15日(金)

第66回 関東甲信越音楽教育研究会
新潟大会【長岡大会】

第48回 新潟県音楽教育研究会研究大会

長岡リリックホール

〈大会主題〉

「出会い かかわり ふかめる」

～他者と協働しながら、思いをもって豊かに表現する姿を目指して～

[問い合わせ]

長岡市立深沢小学校 校長 藤井美恵子

〒940-2135 新潟県長岡市深沢町3081

TEL 0258-46-3665 / FAX 0258-47-4734

26fuka@kome100.ne.jp

「第66回 関東甲信越音楽教育研究会 新潟大会」公式HP(5月にオープン予定)



Spring Seminar

スプリングセミナー 2025

— 新作合唱曲による公開講座 —

コンクール自由曲向けの新曲発表会「スプリングセミナー 2025」を開催いたします。

同声・女声・混声の作品を作曲者、司会者、合唱団と学びます。

※詳細や最新情報は弊社ウェブサイト等でご確認ください。

●日程：2025年3月下旬

●司会：藤原規生

●お問い合わせ：

株式会社教育芸術社

スプリングセミナー実行委員会

TEL 03-3957-1168

FAX 03-3957-1740

<https://www.kyogei.co.jp/spring-seminar/>



最新情報は弊社ウェブサイトで
随時公開いたします。

<https://www.kyogei.co.jp/spring-seminar/>



最新情報は、スプリングセミナーの
Facebookでも発信いたします。

<https://fb.me/kgspringseminar/>

内容は予告なしに変更となる場合がございます。

「カトカトーン通信」のご案内

音楽Webアプリケーション「カトカトーン」の活用例やオススメ情報をお届けする「カトカトーン通信」の最新版とバックナンバーを教育芸術社Webサイトで公開中！

vol. 1～3では「中学生の音楽」より創作教材の展開例をご紹介します。

詳しくは、以下の二次元コードまたはURLより閲覧ページをご参照ください！

<https://www.kyogei.co.jp/katokatone/info/>



カトカトーン通信 vol.1

「中学生の音楽 1」(令和3年度用～)

p. 21「My Melody」展開例

音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくろう。

和音があらかじめ入力されたファイルを使って、「リズムチャレンジ」でつくったリズムで旋律をつくります。



カトカトーン通信 vol.2

「中学生の音楽 2・3 下」(令和3年度用～)

p. 32「Let's Create!」展開例

音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくろう。

自分のつくった2小節のリズムパターンをもとに、それに合う音色を工夫しながらリズムアンサンブルをつくります。



カトカトーン通信 vol.3

「中学生の音楽 1」(令和3年度用～)

p. 40「Let's Create!」展開例

構成を工夫して、3つの場面の音楽をつくろう。

教科書の「林」と「海」の2つの風景からどちらかを選択し、その場面に合う音素材を探して自分の表現したい音楽をつくります。

「カトカトーン」正式版
2024年4月9日リリース！

<https://www.kyogei.co.jp/katokatone/>



「応援 SONG コンテンツ」のご案内

これから新たな一歩を踏み出す全ての人へ——
希望と不安……

あなたの前の未来には、まだ見えないことがたくさんあり、戸惑いを感じることもあるかもしれませんが、でも、あなたはひとりじゃない

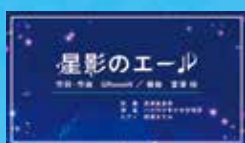
あなたのそばにはいつも音楽が寄り添っています

今までも、そしてこれからも

教育芸術社は、新たな一歩を踏み出す全ての人たちを、音楽の力で応援します！

もしもあなたの周りに、旅立ちを迎える人がいたら、この音楽を贈ってあげてください

皆さまの一歩が、素晴らしい未来へとつながりますよう



悩んだとき、
そっと背中を押してくれる曲。

孤独なとき、
優しくそばに寄り添ってくれる曲。

そんな歌を集めて、歌詞付きの動画を公開しています
ぜひお聴きください

配信曲

- 桜、いつてきます [混声三部] (前山田健一 作詞・作曲／富澤 裕 編曲)
- 星影のエール [同声二部] (GReeeeN 作詞・作曲／富澤 裕 編曲)
- 幸せ [混声三部] (山崎朋子 作詞・作曲)
- Believe [混声三部／ソロ] (杉本竜一 作詞・作曲／弓削田健介 編曲)
- ふるさと [混声三部] (高野辰之 作詞／岡野貞一 作曲／三宅悠太 編曲)
- 雨あがりのステップ [同声・混合二部]
(麻生哲朗 作詞／菅野よう子 作曲／アベタカヒロ 編曲)
- 歌よ ありがとう [同声二部] (花岡 恵 作詞／橋本祥路 作曲)

教育芸術社 Webサイト (<https://www.kyogei.co.jp/>) より

[お役立ち] → [学習支援コンテンツ] → [応援 SONG コンテンツ] にアクセス！





編集後記

多くの人が新たなスタートをきる季節。
新しい出会い、新しい環境に踏み出すこと
への大きな期待と少しの不安が胸を高鳴
らせます。そうしたとき、自身を前に突き
動かすのは、いつだって「やってみよう」
という好奇心であることを、二ノ宮知子
先生のお話からあらためて感じました。
二ノ宮先生の創作の原点ともいえる「おも
しろそう」という気持ちは、私たちも忘れ
ずにいたいと思います。

生徒が主体的に音楽の学びに向き合っ
て、音や音楽との関わりを築き、豊かな情
操が育まれることを願ってつくられた新
しい教科書『中学生の音楽(器楽)』。その
願いが詰まった教科書のポイントと、音楽
からの学びを伝えてくださった上白石萌音
さんのメッセージをお届けします。

お忙しい中、取材や執筆、編集にご協力
を賜りました全ての方に、心より厚く御礼
申し上げます。今後ともご支援くださいま
すよう、お願い申し上げます。

表紙・巻頭イラストレーション
たかなかな

写真撮影
島崎信一 (STUDIO S+PLUS)

写真・画像提供
講談社
松竹
宣弘社
ダイナミック企画
人形劇団ひとみ座
パンローリング(マンガショップ)
光プロダクション
藤原道山

イラストレーション
いつか

表紙デザイン・本文版
STORK

音楽教育 ヴァン



発行者 株式会社 教育芸術社
(代表者 市川かおり)
〒171-0051 東京都豊島区長崎1-12-14
TEL. 03-3957-1175(代)
FAX. 03-3957-1174
https://www.kyogei.co.jp/
©2024 by KYOGEI Music Publishers. ®-24
本書を無断で複写・複製することは著作権法で
禁じられています。

*ヴァンは“vent”はフランス語で「風」。
新しい音楽教育の地平を切り開いていく
願いを込めています。



Recommend

小学生のための合唱パート練習用CD トリオン11、12

- 合唱のパート別の歌とカラビアナが収録されているので、伴奏者がいなくても簡単に音取りができます。
- トリオン11収録曲：君は虹を見たかい？／地球へ／星とたんぼ／さよならの前に／ことばを追い越して
- トリオン12収録曲：街にだかれて／ペガサス／君の空見上げて／リレーランナー／僕と君の未来へ／星影のエール
- 定価3,300円(本体3,000円+税10%)／1枚
- トリオン11:KGO-1204 ●トリオン12:KGO-1205



金子みすゞ・矢崎節夫の詩による新しい童謡曲集 わたしと小鳥とすずと 一斉唱・合唱一

- 童謡詩人の金子みすゞと、その詩を世に広めた詩人の矢崎節夫。2人の詩に、弓削田健介、ことりゆき両氏が曲を付けまとめた1冊！
- 収録曲：わたしと小鳥とすずと／こたまでしょうか／ゆうひと おかあさん／かばバールン／他(全18曲)
- 定価3,080円(本体2,800円+税10%)／B5判／64ページ／CD付き
- ISBN978-4-87788-997-5



中学生のための新しい教材集 天球図

- 新作のアカベラ、混声二部、三部の合唱曲や、手拍子が主役の作品、ボディーパーカッション、机を楽器に見立てたりズム アンサンブル、小編成の合奏曲など、さまざまな演奏形態の作品を掲載しています。
- 収録曲：前に／瞳をとじて見えるもの／天球図／14 -fourteen-／懐かしい未来／Bodipa Beats Z／Desk Drumming -part 1-／Desk Drumming -part 2-／クラッピン グラブソディ 第4番／Brave Departure／We Are Confidence Man
- 定価880円(本体800円+税10%)／B5判／56ページ ●ISBN978-4-87788-990-6



中学生のための新しい教材集 タイムリーパー

- 手軽に取り組める混声三部のアカベラや混合二部合唱、歌いごたえのある混声四部のアカベラや女声三部合唱、キーボードのみで演奏できる合奏等、多様な編成のアレンジを掲載しています。
- 収録曲：明日を向いて／道を歩けば／ふるさと／Amazing Grace／タイムリーパー／すべてのもの／1/6の夢旅人2002／明日へ／Body Beats／気ままな日曜日／A Whole New World
- 定価880円(本体800円+税10%)／B5判／56ページ ●ISBN978-4-87788-998-2



オリジナル合唱ピース

- クラス合唱や全校集会、コンクール自由曲向けの新曲です。
- 【同声編112】ことばを追い越して(宮本益光 作詞／三宅悠太 作曲)
- 【同声編113】同声合唱とピアノのための きつねうどんをたべるとき(山本純子 作詞／西下航平 作曲)
- 【同声編114】そらのいろ みずいろ(下田昌克 絵本／名田綾子 作曲)
- 【女声編64】女声合唱とピアノのための 空を呼吸する(川井麻希 作詞／根岸宏輔 作曲)
- 【女声編65】Plum and Snow(瑞慶覧昌綱 作詞／鶴見幸代 作曲)
- 【混声編115】ことばを追い越して(宮本益光 作詞／三宅悠太 作曲)
- 【混声編116】混声合唱とピアノのための パラベタマビエ(『万葉集』より／旭井翔一 作曲)
- 【混声編117】海よりはるかに(山本環子 作詩／上田真樹 作曲)
- 各定価660円(本体600円+税10%)／B5判



小学校・中学校・高等学校教科書訂正のお知らせ



教科書及び指導書の訂正を当社ウェブサイトに掲載しています。誠に恐れ入りますが、ご確認のうえ、ご指導の際にはご留意くださいますようお願い申し上げます。

教育芸術社 LINE公式アカウント



ぜひお友だち登録
してください♪

はじめました！